

10月29日(日)・大会2日目 11:00~12:20 (会場:F401) (80分)

●セッション【9】

テーマ:安全マネジメントと組織

「安全マネジメントに組織論がどう貢献できるのか」

- ◎ 原拓志(関西大学)
- 谷口勇仁(中京大学)
- 藤川なつこ(神戸大学)
- 吉野直人(西南学院大学)

◎セッション・リーダー

[概要]

安全マネジメントについては、これまで工学や社会心理学などからのアプローチに加えて、組織論的な視点からも議論がなされてきた。ノーマルアクシデント理論、高信頼性組織の理論、スイスチーズ・モデルなどがその代表であり、安全マネジメントのための組織構造や組織行動、組織文化などが論じられてきた。理論面ではこれらの先行理論を批判的に摂取しつつ、実践面ではこれまでに組織事故として注目されてきた事例を改めて振り返りながら、今後の安全マネジメントについて組織論の視点から、どのような理論的・実践的な貢献機会があるのか。また、安全マネジメントの研究は、組織論にどのような発展の機会を与えるのか。この問題について、参加者間で議論したい。

[参加者へのメッセージ]

世界の情報を瞬時に繋げるデジタル・ネットワーク技術や人間という存在の意味に変化をもたらすAIやクローンなどの技術などの発展や、グローバル化とナショナリズムとの複雑な相互作用を背景に、危機と隣り合わせの日常となっています。そのような時代において安全マネジメントへの取り組みは喫緊の社会課題です。それに組織論はどのように貢献できるのか、大きな問題ですが、3つの報告を足掛かりとして議論してまいりたいと思います。